

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
告	コク つける								九経<説文> 告
告									九経<隸省> 告
吹	スイ ふく								聖武天皇集 吹
皇	テイ								杜家立成 皇
皇									
吞	ドン のむ								王勃詩序 吞
吞	人③								周玉集 吞
否	ヒ いな								干祿字書 否
吻	フン								李麗墓誌 吻

【皇】「皇」と「呈」は異体字。説文に従えば「皇」が正字体。唐代の正字体は見えないが、康熙字典では「皇」を採用。慣用字体の中国での使用例は「皇」が優勢だが、日本では「呈」が優勢。これは上代に伝わった字体が「呈」だったからではないだろうか。明朝体の字体は康熙字典以来、正字体の「皇」

だが下部が「ノ+土」のものとして「ノ+土」のものがある。当用漢字字体表は、現代に近い時代に手書きで書かれてきた字体を採用する傾向があり、中国は歴史的に使われてきた字体を採用する傾向があると思う。中国が俗体と思われる字体を採用しているのはめずらしい。なお、『陸軍幼年学校用字便

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
												告 現代中国
												吹 現代中国
												皇 現代中国
												吞 現代中国
												否 現代中国
												吻 現代中国

覧』では「扌」と「皇」を「元は別字」とする。【吞】「吞」と「呑」は異体字。説文も、中国や日本の慣用字体もほとんど「吞」を使っているのに、使われていない「呑」をJIS第一水準に「吞」を第三水準にしているのは不思議だ。なお、人名に使えるのは人名用漢字の「吞」で、「呑」はJIS

第一水準ではあるが、常用漢字でも人名用漢字でもないので人名には使えない。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
呆	ホウ ボウ あきれる								
吠	ハイ ハイ ほえ ほえる		吠	吠		吠	吠	吠	吠
呂	ロ リョ 人→新①	呂 呂 呂	呂	呂 呂			呂 呂 呂	呂 呂 呂	呂
呼	コ よぶ	呼 呼	呼	呼 呼		呼 呼 呼	呼 呼 呼	呼	呼
咋	サク サク く く								咋
舍	シャ やどる	舍 舍 舍	舍	舍 舍		舍 舍 舍	舍 舍 舍	舍 舍 舍	舍
舍	②	舍 舍 舍	舍	舍 舍		舍 舍 舍	舍 舍 舍	舍 舍 舍	捨

【呆】明治よりも前の手書きの使用例がみつからない。
 【吠】旁を「友」や「友+点」とする字体もあったようだ。
 【呂】「口+口」の字体と、「口」と「口」をつなぐ線がある字体「呂」の2種がある。中国では「呂」が出現するのは後漢の隸書だけで、その前後の時代は「口+口」の字体。説文解

字の篆文は「呂」だが、説文解字も後漢に編まれたもの。後漢の隸書が説文解字に影響を与えているか、あるいは説文解字が後漢の隸書に影響を与えているのかもしれない。九経字様は「口+口」の字体を〈隸省〉としているが、そんなことはない。日本でも上代から平安にかけて「口+口」の字体。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41～ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
		呆 呆	呆	呆			呆		呆			呆 現代中国
		吠 吠	吠	吠			吠					吠 現代中国
		呂 呂	呂	呂			呂		呂			呂 呂 江戸九経漢文 現代中国
		呼 呼	呼	呼			呼		呼			呼 現代中国
		咋 咋	咋	咋								咋 現代中国
		舍 舍	舍	舍			舍		舍			舍 現代中国
		舍 舍	舍	舍			舍					捨 繁体

現代の「呂」は康熙字典の影響を受けていると思われる。現代中国では伝統的な字体に倣って「口」と「口」をつなぐ線がない「口+口」を書く。拓本の九経字様では「口」と「口」をつなぐ線が垂直だが、江戸の版本の九経字様では斜め。
 【呼】初文には「口」がなかったようだ。

【舍】『JIS漢字辞典』では「舍」が「口」部に、「舍」(第二水準)が「舌」部にある。『漢字海』では「人」部。康熙字典では「舌」部。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
呪	ジュ シュウ まじない のろい のろう まじなう						呪呪呪	呪	龍造寺論語目録
呪	②							呪	御書指歸
周	シュウ まわり あまねし めぐる	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	周周周周周周周周周周	周	王勃詩序
		𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎			
			𠄎	𠄎					
味	ミ あじ あじわう		𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	味味味味味味味味味味	味	杜家立成
命	メイ ミョウ いのち みこと	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	命命命命命命命命命命	命	王勃詩序
			𠄎	𠄎	𠄎	𠄎			
			𠄎	𠄎	𠄎	𠄎			
和	ワ・オ なごむ なごやか やわらく やわらげる	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	和和和和和和和和和和	和	王勃詩序
味		𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎		和	江戸九経序
𠄎		𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎			
哀	アイ あわれ あわれむ かなしい	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	哀哀哀哀哀哀哀哀哀哀	哀	王勃詩序
			𠄎	𠄎	𠄎	𠄎			

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41～ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
呪呪呪呪							呪		呪			呪 現代中国
周周周周周周周周周周							周周周周周周周周周周		周			周 現代中国
味味味味味味味味味味							味味味味味味味味味味		味			味 現代中国
命命命命命命命命命命							命命命命命命命命命命		命			命 現代中国
和和和和和和和和和和							和和和和和和和和和和		和			和 現代中国
哀哀哀哀哀哀哀哀哀哀							哀哀哀哀哀哀哀哀哀哀		哀			哀 現代中国

【呪】「呪」は「くちへん」の位置が動いた異体字(動用字)。日本では上代から江戸期まで「呪」の方が優勢。
 【周】説文篆文では「𠄎」の左肩が開いており、五経文字もその字体を採っているが、甲骨、金文を見る限り、左からが開いている必然性はないようだ。手書きの通用体では「周」が

書かれ、康熙字典に做った活字では「周」が使われるが、弘道軒も文部省活字も「周」。漱石は「周」を書くが太宰は「周」を書く。昭和24年の時点で岩田母型製造所に「周」の字体の母型はなかった。
 【和】金文を見るかぎり、この字は「禾(のぎへん)」ではな

く「木(きへん)」に従う字だったらしい。説文篆文では「味」で郭店楚簡の字体と合致するが、他に合致する例がみつからない。康熙字典では説文篆文の「味」を古文としている。
 【哀】日本では上部が「一」ではなく「㇇」が多い。また「口」の下に横線が加わる字体が優勢。そのような字体は中国では

北魏および唐代の楷書にある。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
咽	イン・エツ のど のむ むせぶ 新①								元順嘉誌 無上秘要① 干祿字書 王勃詩序
									王基嘉誌 龜山玄錄
									元寧嘉誌
咳	ガイ せき ①								響替指歸
哉	サイ かな や 人①								響替指歸
									響替指歸
									響替指歸
									響替指歸
									響替指歸
咲	ショウ さき わらう 常①								元順嘉誌 春秋左伝昭公 干祿字書 魏玉集
									元順嘉誌 南華真經 江干祿 響替指歸
笑	ショウ えむ わらう 教4常①								寶林 金剛 鳩陀羅尼經 響替指歸
									響替指歸
									響替指歸
									響替指歸

【咽】「大」は人が大の字になった形だが、腕を左右に伸ばし、脚を水平に伸ばせば「土」になる。「土」が「工」「ユ」「ヨ」に変化する。

【咲】「咲」と「笑」は異体字。現代中国では「咲」と「笑」は「笑」に統合されている。説文篆文には「笑」しかみえな

いが、十七帖の字体は明らかに「咲」をくずしているの、もしかしたら古文に「咲」に近い字もあったのかもしれない。康熙字典では「咲」を「笑」の古文としている。顔真卿の書による干祿字書は「竹十犬」を〈正〉とし、「咲」を〈通〉としている。江戸期の官版の干祿字書では〈正〉が「竹十犬」

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
												咽 現代中国
												咳 現代中国
												哉 現代中国
												咲 現代中国
												笑 現代中国

になっている。五経文字は「竹十犬」になっている。九経字様では「笑」と「竹十犬」の字体の2種が載っている。江戸期の版本の『大日本永代節用無尽蔵』には「咲」に「わらう」と振り仮名がついている例があり、「笑」と「咲」の使い分けはまだはっきりしていない。陸軍幼年学校用字便覧では「咲

ハ多ク大きくトイフ時ニ用イラル」とあるから、大正に入った頃には使い分けがあったようだ。漱石は「竹十犬」と「竹十犬」の2種の字体を使っている。漱石は干祿字書と五経文字の両方を見ていたのだろうか。漱石の友人の中村不折が干祿字書の拓本を持っていたのはわかっているのだが。

